

東京一安全な都市狛江へ 充実した安心安全条例を

市「条例内容を推進する組織を設置し実効性を担保する」



田中とも子議員
042-427-1183

議員は、安心で安全なまちづくり基本条例について、東京一安全な都市めざし充実したものになるよう求めました。

総務部長は条例の特徴について「安心安全に関するすべての分野を網羅しうる。条例内容を推進する組織を設置し例規や計画につなげることににより、条例の実効性を担保する。地域を中心とした取り組みを通して地域コミュニティ再生の一翼を担うことが期待できる」と答えました。

また交通安全対策で自転車の安全指導、自転車専用レーンの設置など要望しました。

総務部長は、「小学生には自転車教室の開催および自転車運転免許証の配布を実施している。中学生にはスタントマンを活用した交通安全教室を開催している。高齢者に対しては、つどいなどを利用して交通安全の啓発を行っている。様々な機

自転車の安全利用

「認知症への支援」

田中議員はまた、認知症対策について、予防講座の充実、認知症サポーターの養成、ふれあいサロンの拡大など質問しました。

福祉保健部長は「一人暮らしの認知症高齢者については、市や包括支援センター職員がかかわることで、介護サービスや医療につながり、生活が安定するケースが多数ある。お金の管理ができず、公共料金の支払いが滞り、ライフラインがストップしていたケースもあつた。地域における見守り体制の構築が必要」と認知症予防教室を全5回を全10回に充実していく。「サポーターの養成講座を大規模なものや小規模なものなど計画的に実施していく」など答えました。

認知症への支援

「児童虐待の件数は平成20年度58件、21年度60件、22年度62件。就学前児童と小学生が全体の約9割を占めている。相談経路は学校が最も多く、続いて保育所、近隣知人となつている」

「28年度に仮園舎に子ども家庭支援センターが移転するので相談業務も対応できるようしていく」「こ



田辺良彦議員
3430-5273

議員は、児童虐待防止対策について、関係機関の連携強化、相談体制の充実、乳幼児の家庭の訪問など質問しました。

児童青少年部長は

児童虐待防止へ相談体制と連携の強化を

市「虐待件数は62件。こんにちは赤ちゃん事業で保健師が全家庭訪問」

「児童虐待の件数は平成20年度58件、21年度60件、22年度62件。就学前児童と小学生が全体の約9割を占めている。相談経路は学校が最も多く、続いて保育所、近隣知人となつている」

「28年度に仮園舎に子ども家庭支援センターが移転するので相談業務も対応できるようしていく」「こ

地震災害対策

田辺議員はまた、地域防災計画の見直し、原子力災害への対応、帰宅困難者対策、和泉多摩川緑地の都立公園化など質問しました。

総務部長は「原子力災害の特殊性を考慮すると、万が一、不測の事態が発生した場合であっても対処できるように体制を整備することが重要」「学校、幼稚園、保育所などとの家族との間の安全確認、通信手段の確立は、帰宅困難者対策の根幹なので、対策を推進していく」と答えました。

建設環境部長は和泉多摩川緑地の都立公園化について「昨年度と今年度、都に対し市長会を通じ要望している。昨年度は、多摩川沿いに都市計画決定された緑地等の整備による防災拠点整備の要望をした。その後の東日本大震災で実際に大量の帰宅困難者が発生したことを受け、改めて今年度も引き続き防災拠点整備の要望を行った」と答えました。

公契約条例、空き店舗対策、商品開発支援を

市「新たな商品開発への支援、融資あっせん制度など検討していく」



鈴木えつお議員
3488-8839

議員は、①公契約条例の制定、②小額契約希望者登録制度の利用拡大、③市内共通商品券事業の継続実施、④空き店舗対策の推進、⑤新たな商品開発への支援、⑥産業振興条例の制定について質問しました。

総務部長は、①「市財政への影響や人員増労働者などの要望をお聞きする」「公契約は公共工事や業務委託に携わる民間労働者の賃金を確保し、良質な公共事業に大きく寄与するものであり、今後とも国や他市の動向を注視していく。当面、国土交通省が出している下請け契約及び下請代金の適正化並びに施工監理の徹底等について、その趣旨を徹底していく」「国への要望は、関係団体の要望など伺い検討していく」②「商工会に周知していく」と答えました。

「独自のイベントなど商工業の活性化につながる工夫が必要」④

大気汚染対策

鈴木議員は、大気汚染やぜん息患者の状況をただし、救済制度創設を市として国に要望するよう求めました。

市は「大気汚染の医療費助成申請者は昨年9月末現在729人」「気管支ぜん息患者は小学校は23年度324人」「患者の方々の要望をふまえ市長会を通じて要望していく」と答えました。

胆道閉鎖症

発見が遅れると死に至ることもある赤ちゃんの病氣、胆道閉鎖症について、早期発見への対応求め、市は「母子健康手帳に(病氣の)便の色がわかる印刷物が入る。ママパパ学級の参加者に保健師が説明し小児科医や産婦人科医にも協力をお願いする」と答えました。